

Android 快適設定術

Windows 10との連携を強化

第7回

スマホとパソコン、どちらも愛用しているなら両者の連携を模索しよう。情報の共有で、両端末の操作も一層便利になる。

文：原如宏

Androidスマートフォン（以下、スマホ）は、単体でも十分満足できるほど多機能でアプリも充実している。しかしながら普段、パソコンを使っているならスマホと切り離して使うのはもったいない行為と言える。なぜならスマホはパソコンと連携させることで、かゆいところに手が届く、便利な技がいくつも使えるようになるからだ。今回は、そんなパソコンとスマホの連携を、SIMフリースマホ「P20 lite」（ファーウェイ・ジャパン）を使って解説していく。

Windows 10がスマホに対応

スマホとパソコンの連携というと、真っ先にGmailやGoogleカレンダー、オンラインストレージなどのクラウドを利用した共有機能を思い浮かべるだろう。確かに、それらも連携機能の一つだが、今回はストレートに現行OSのWindows 10とAndroidスマホの連携を取り上げる。実は今、Windows 10とスマホの連携が以前よりもやりやすくなっているからだ。

背景には、米マイクロソフトが積極的にスマホとWindows 10との連携機能強化を図っていることがある。最たる例は、今年4月に実施された大型アップデート

●Windows 10にAndroidスマホを登録



図1 Windows 10のスタートメニューの「設定」をクリック。「Windows の設定」画面が現れたら、OSの現行バージョンで追加された「電話」へ進む

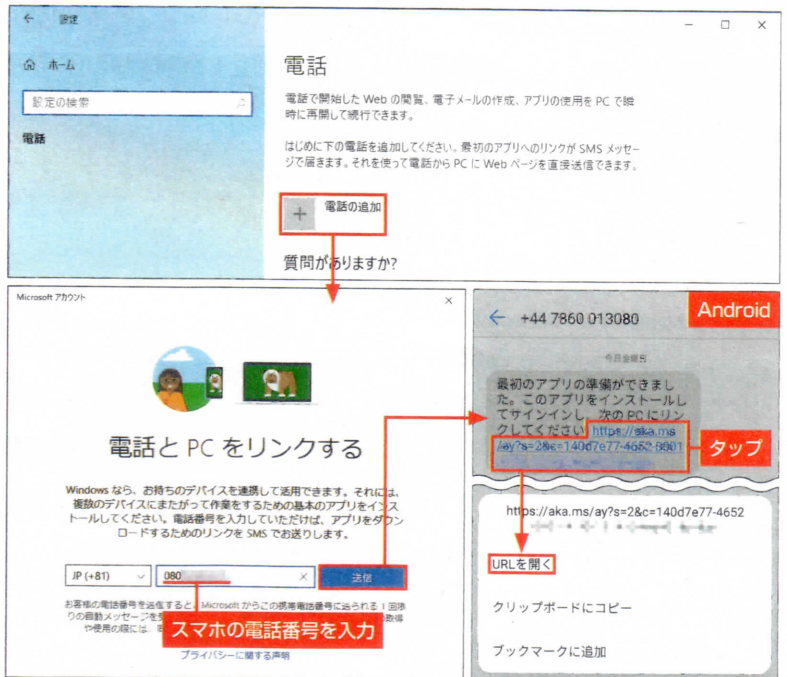


図2 開いた「電話」設定で「電話の追加」をクリック（上）。スマホの電話番号を入力し（左下）、スマホに届いたSMSからURLをタップして開く（右下）

●「Microsoft Launcher」を設定



図3 Playストアが開くので「Microsoft Launcher」をスマホに導入。アプリを起動して壁紙など初期設定を済ませ、Microsoftアカウントでサインイン

「Windows 10 April 2018 Update」(OSのバージョンは1803)で実装された「電話」設定だろう(図1)。電話といってもスマホのことを想定しており、図2上のように「電話の追加」からスマホの電話番号を入力し、SMS(ショートメッセージ)を送信。スマホに届いたSMSのメッセージを開いて、記載のURLアドレスをタップすると(図2右下)、パソコンと連携に使用するアプリ「Microsoft Launcher」を入手できる仕組みになっている。

連携アプリをスマホに導入

まずは、入手したMicrosoft Launcherを設定していく。ここで必要になるのが、パソコンで利用しているMicrosoftアカウントだ。同じIDとパスワードでスマホからサインインしよう(図3左下)。なお、Microsoft Launcherは、ホーム画面やメニュー構成などを変更できるホームアプリ(P20 liteでは「ランチャー」と呼ぶ)のため、ホーム画面の壁紙なども初期設定時に決められる(図3右)。

パソコンと基本的な連携をするだけなら、ランチャーをMicrosoft Launcherに変更する必要はないものの、新しいホーム画面でスマホを使ってみたい人、または後述する最近撮影した写真をOneDrive経由でパソコンへ転送するにはマイクロソフトのホームアプリが必須になる。図3でサインインした後、図4左のデフォルトアプリ設定が開くので、ランチャーを変更してみよう(図4右上)。実行すると、壁紙やアイコン、メニューなどのデザインや構成が変わる。アイコンの位置が変わるので戸惑うだろうが、

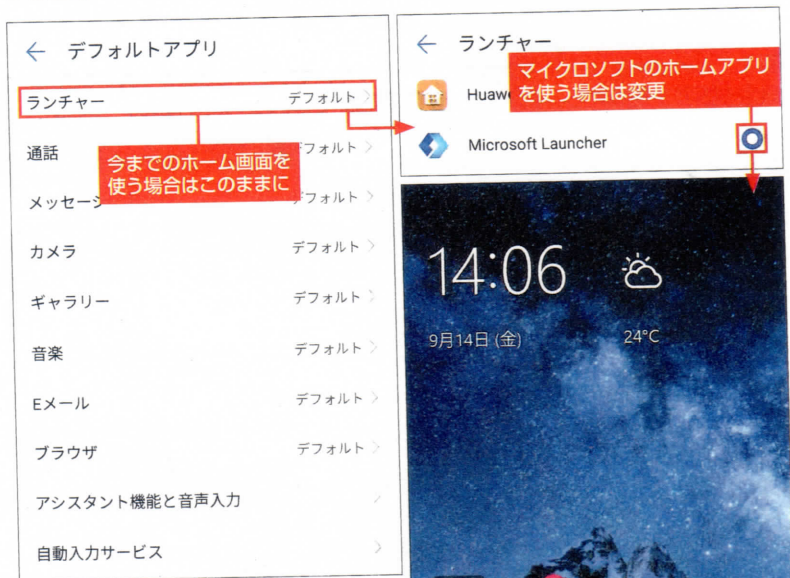


図4 サインインすると、ホームアプリ(P20 liteでは「ランチャー」)に使うか問われる。通知は連携したいが、ホームを変えたくない場合は「デフォルト」のままでOK。ホームごと一新して、よりパソコンと連携を強化したい場合は、上の手順でランチャーを「Microsoft Launcher」に変更



●スマホで気になったWebページをパソコンで読む

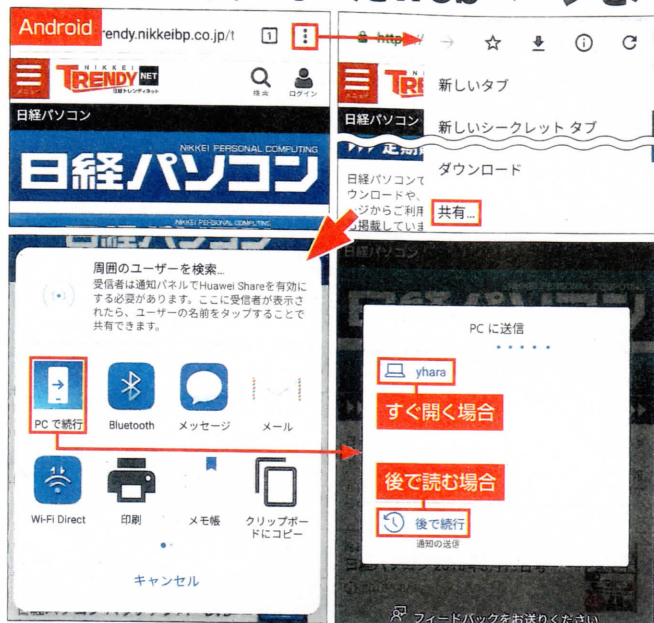


図5 スマホの「Chrome」でWebページを開き、上の手順で「共有」を実行。「PCで続行」から(左下)、送信方法を選ぶ(右下)



図6 図5右下で「後で続行」を選ぶと上の通知が届き、アクションセンターに格納。通知を実行すると、同じWebページが開く

基本的な操作は今まで通り。すぐに慣れてしまうので安心してほしい。

Windows 10でスマホがパソコンに連携すると、何が出来るようになるのか？便利になる作業はいくつかある。まずは、スマホのChromeアプリで開いたページの続きをパソコンで読みたいといった場合だ。これまで同様のことをしようと思ったらメールで自分宛てにWebページのURLアドレスを送るか、Chromeの同期機能で開いたタブをパソコンで開き直すのが一般的だった。

しかし、一度パソコンに連携したら、Androidの共有機能に「PCで続行」というアイコンが追加される(図5左上、図5右上、図5左下)。これをタップすると「PCに送信」画面が開き、さらにメニューで連携済みのパソコン名を選ぶか、「後で続行」を実行する(図5右下)。前者はWebブラウザの「Edge」が起動し、ス

●表示中の地図や直近の写真なども送れる



図7 「マップ」で目的地をタップまたは検索。開くメニューで「共有」を選び、図5左下の手順で「PCで続行」と実行すると、パソコンで同じ位置の地図が開く



図8 図4でMicrosoft Launcherに変更したスマホは、左の手順で「最近のアクティビティ」から「PCで続行」を実行。最近の写真をOneDrive経由でパソコンに表示する

● 次の大型アップデートではさらなる強化も



図9 次の大型アップデートで導入予定の「Your Phone」アプリ。これによりスマホ内の写真をパソコンで直接操作できるようになる*

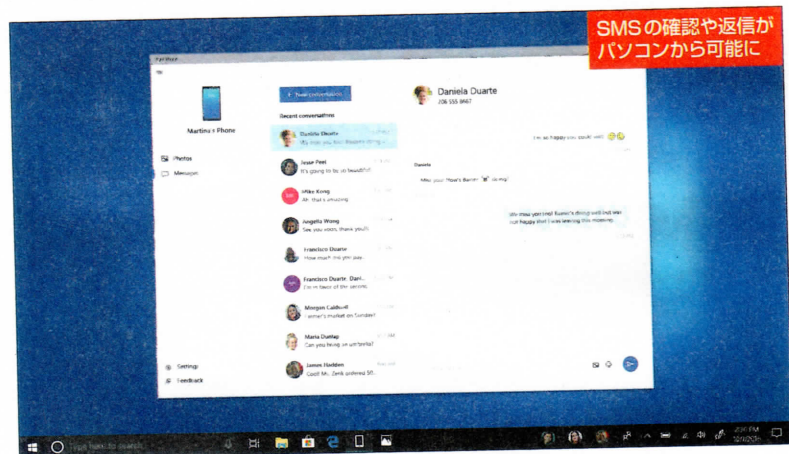


図10 Your PhoneアプリではSMSの連携も可能。こちらの場合は、SMSで送られてきたメッセージを確認できたり、パソコンから返信できたりする

● 着信などのスマホ通知をパソコンで確認



図11 スマホの通知をパソコンで確認するには「AirDroid」というアプリを使う。上のWebページを開き、ソフトを入手する



図12 インストール画面で「サインアップ」を選択(左)。開いたWebページでメールアドレスなどを指定してアカウントを作成(右)

*画面はInsider Preview版

マホで開いていたページが表示される。後者を選んだ場合は、パソコンに通知が届く。Webページを読むには、アクションセンターから届いた通知をクリックする(図6)。こちらもEdgeでWebページが開く仕組みだ。

「PCで続行」の操作は、Webページの送信以外にも使える。例えばマップ。目的地を地図上でタップするか、検索した後、開くメニューの「共有」から実行する(図7左)。すると、パソコンのEdge上でGoogleマップが開き、スマホで見ていた場所の地図が表示される(図7上)。

図4右上でMicrosoft Launcherをメインにした場合は、最近撮影した写真も送信可能だ。ホーム画面の左端から右へスライドすると開くメニューで「最近のアクティビティ」項目を探し、この中から送りたい写真を長押し。続くメニューで「PCで続行」を実行すると、いったんクラウドの「OneDrive」に写真がアップロードされる。完了後、パソコンのEdgeが自動的に起動して、OneDrive上に保



存された写真が表示される(図8)。

Windows 10の次期大型アップデートでもスマホ連携機能が強化される見込みだ。マイクロソフトが公表しているものでは、「Your Phone」という連携アプリを使ってスマホ内の写真フォルダーをパソコンから直接アクセス可能になり、写真を閲覧したり、文書に貼り付けたりできるという(図9)。同様に、SMSもパソコンから履歴の閲覧と返信ができる機能を用意する(図10)。ますますパソコンを使ったスマホ活用が進みそうだ。

スマホの通知をデスクトップ表示

ここまでWindows 10の基本機能を使った連携を紹介したが、次は一歩進んだ活用技を見ていく。使うのは「AirDroid」(エアドロイド)。多機能なパソコン連携アプリだが、今回はスマホに届くさまざまな通知をパソコンで確認できるツールとして焦点を当てた。

まずはAirDroidをパソコンと、スマホにそれぞれ導入していく作業だ。パソコンで公式ページを開き、Windows版のソフトを入手。パソコンにインストールする(図11)。初回起動時にAirDroidのソフト画面で「サインアップ」を選び、専用アカウントを作成しよう(図12)。なお、ソフト起動時にファイアウォールの警告画面が表示されることがある。この場合は、プライベートネットワークのアクセスの許可が必要になる。図13の要領でファイアウォールのブロックを解除する。

続いてスマホにもAirDroidアプリを導入する。図12で登録したアカウントでサインインしよう(図14左、図14右上)。

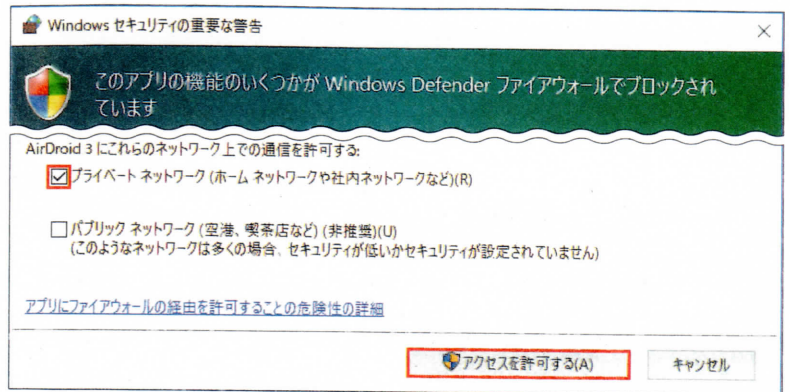


図13 ソフトの起動時にファイアウォールの警告が表示される場合は、「プライベートネットワーク……」にチェックを入れ、アクセスを許可する

● スマホにも連携アプリを導入

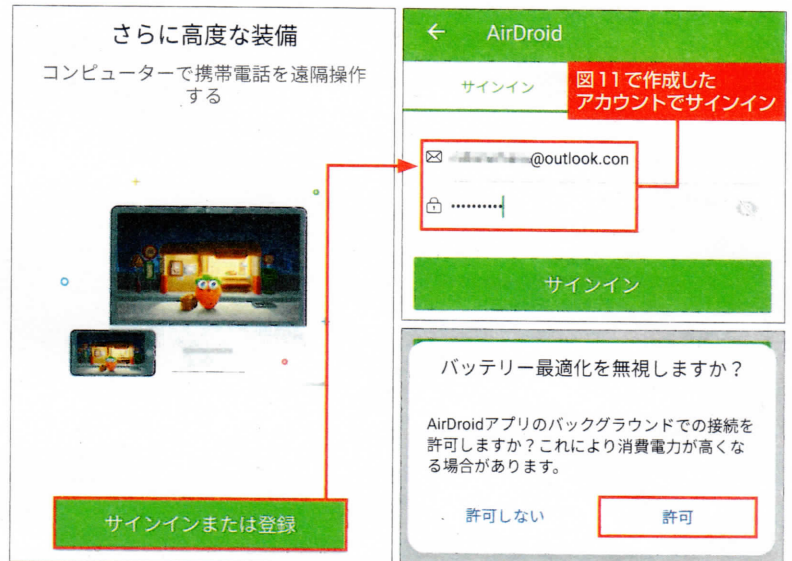


図14 続いてスマホにAirDroidアプリを導入し、図12で作成したアカウントでサインインする。右下の画面が表示された場合は「許可」を選ぶ



図15 AirDroidアプリを起動したら、下のメニューで「ツール」をタップ(左)。メニューで「デスクトップの通知」機能を有効にする(右)

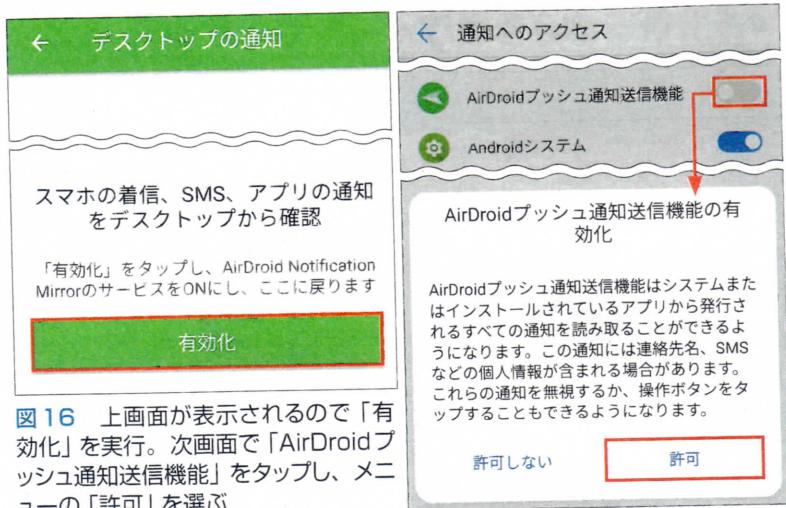


図16 上画面が表示されるので「有効化」を実行。次画面で「AirDroidプッシュ通知送信機能」をタップし、メニューの「許可」を選ぶ

バッテリー最適化の無視に許可を与えると(図14左下)、AirDroidのホーム画面が開く。あとは、下のメニューから「ツール」を選び(図15左)、メニューの「デスクトップの通知」機能を有効にする(図15右、図16左)。最後に通知のアクセス設定が開いたら、「AirDroidプッシュ通知送信機能」をタップしてオンにすれば設定作業は完了だ。

AirDroidが対応するスマホの通知は、電話の着信とSMS(図17図左)、そのほかインストールしているアプリだ。通知が多過ぎる場合は、設定で特定のアプリの通知をオフにしよう(図17右)。

図18は実際の通知例だ。着信通知の場合は、パソコンから電話の着信拒否の操作が可能になっている。一方、Gmailの到着通知は件名のみ表示される。AirDroidの通知機能を活用するもう一つの機能が、デスクトップ上に現れるウィジェットだ。このウィジェットにポインターを合わせると新着の通知が表示され、クリックでソフトを起動した後は、過去の通知も確認できる(図19)。

● スマホで通知するアプリを設定

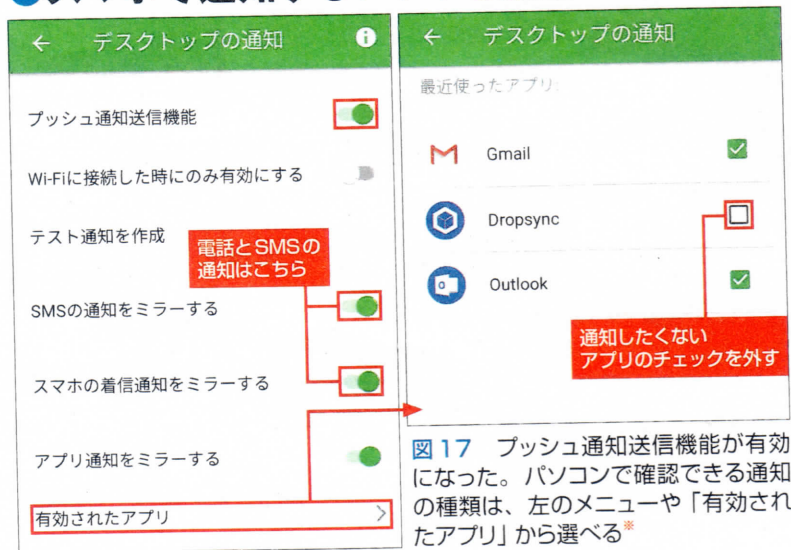


図17 プッシュ通知送信機能が有効になった。パソコンで確認できる通知の種類は、左のメニューや「有効されたアプリ」から選べる*

● スマホ通知がデスクトップに届く



図18 AirDroid経由でスマホ通知がパソコンに送信された。上は電話の着信で、右がGメールの到着通知になる。このほか、スマホの通知はほぼ全て届く

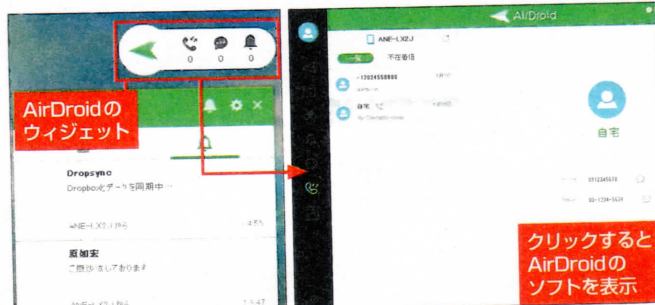


図19 通知の履歴は、デスクトップに現れる専用ウィジェットからでも確認できる。新着はウィジェットにポインターを合わせ(左)、過去履歴はウィジェットをクリックしてソフトを開く(上)

* 「有効されたアプリ」に表示されるのは、AirDroid運用後に通知が届いたアプリに限られる。このため導入直後は表示されるアプリは少ない。日にちをおいて、何度も確認しよう